

○城崎排水機場では、平成29年10月22日22時～23日15時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量26.9万m³の内水**を排除しました。

■城崎排水機場の位置・全景



■大谿川の水位低減効果

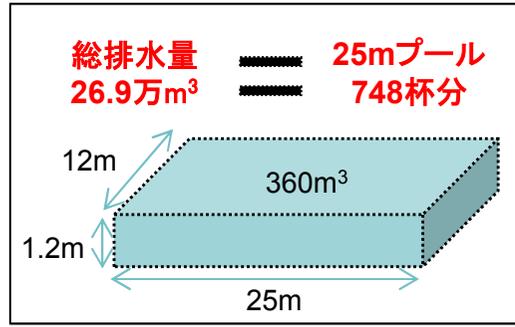
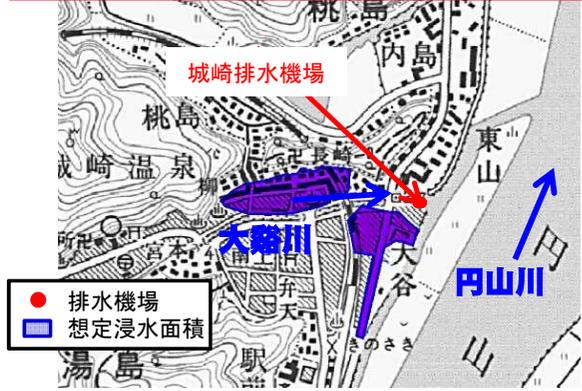
今回のポンプの稼働により、**総排水量26.9万m³の内水**を排出し、大谿川の水位が**約0.6m低下**、浸水面積が**約4.0ha**、浸水家屋が**約60戸減少**。



■城崎排水機場の役割

城崎排水機場は大谿川における内水対策事業として、昭和49年度にポンプ5.7m³/sを2台新設しました。さらに、平成12年度にポンプ5.7m³/sを1台増設。また、平成20・22年度に既設のポンプ2台を8.65m³/sに更新し、**合計排水能力23.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。昭和49年度より運用を開始した城崎排水機場は、完成からすでに**40年以上経過**しています。城崎排水機場は、円山川洪水の大谿川への逆流を防止するとともに、大谿川の流水を円山川へ排水することで、豊岡盆地の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが稼働しなかった場合の浸水被害



※速報値であり、今後変わる場合があります。